ありば ヒューマンドキュメント



10年以上障害福祉に関わる下薗さん。高次脳機能障害への理解を深めるため、専門的な知識や支援技術を学び続けている。

リハステーションゆす/所長

［下薗（しもぞの）　左和子（さわこ）］さん

一人ひとりの可能性に寄り添う、利用者との関わり方

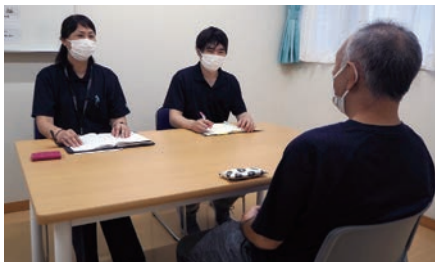
鹿児島市の「リハステーションゆす」では、高次脳機能障害のある方を中心に、日常生活や社会生活、就労に向けたさまざまな訓練を行っています。事業所の所長として勤務する下薗 左和子さんは、利用者一人ひとりのケアに徹底しながら、小さな変化を見逃さないようにスタッフ同士の連携を大切にしています。「多職種のスタッフがそれぞれの専門性を活かし、『チームとして支える』ことで利用者の強みや可能性が見えてくる」と下薗さんは話します。

現在の利用者は、生活訓練と生活介護のサービスで合わせて33名。朝のラジオ体操やミーティングから1日が始まり、45分を1コマとした訓練を個々に組み立てています。訓練の内容は、作業訓練や日常生活訓練、医学的な勉強、コミュニケーション訓練などさまざまです。施設の中だけでなく、歩行訓練など屋外活動も交えながら実際の地域生活を意識した訓練を行っています。

「もともとは高次脳機能障害を対象として立ち上がった事業所ですが、現在は身体障害や発達障害など、さまざまな障害のある方も受け入れています。障害名が同じでも、症状や困っていることは一人ひとり違います。『この障害だからこの支援』と決めつけるのではなく、その人自身の希望も聞きながら、必要な訓練や支援を考えることを大切にしています」。

「できない」から「別の方法ならできる」へ、挑戦の後押しをする

「できないことが一つあっても、それですべてができなくなるわけではありません」。リハステーションゆすでは、高次脳機能障害のある方の「できること」や「これからできる可能性」に目を向け、一人ひとりに合った方法や環境を一緒に考えています。また、就労支援では、仕事を紹介するだけでなく、見学や面接にも同行し、新たな一歩を後押ししています。今後は、「支援の専門性を高めるために、地域の社会資源をもっと見つけていくことも重要だと考えています。その人らしく心豊かな暮らしができる地域づくりに、これからも関わっていきたい」と思いを語ってくださいました。



利用者と話をしながら、一人ひとりの状態に合わせた訓練を行っている。



利用者同士の関わりの中で、他の利用者を気遣い、世話する様子も見られる。

〈高次脳機能障害とは?〉

高次脳機能障害とは、病気や事故などで脳が損傷を受け、思考・記憶・判断・感情などの認知機能に残る障害のことです。主な症状は、記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害など、症状や度合いは人によってさまざまです。また、見た目からは判断しづらいため、周囲に理解されず、叱責を受けたり、誤解されたりすることがあります。本人や周囲の人たちが障害を理解し、適切な対応をとることが大切です。

社会福祉法人　鹿児島県社会福祉事業団
リハステーションゆす
〒892-0836　鹿児島市錦江町3-7
電話 099-295-0415　FAX 099-295-0453